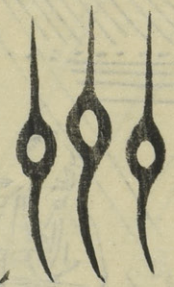
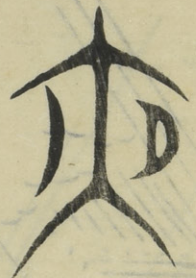
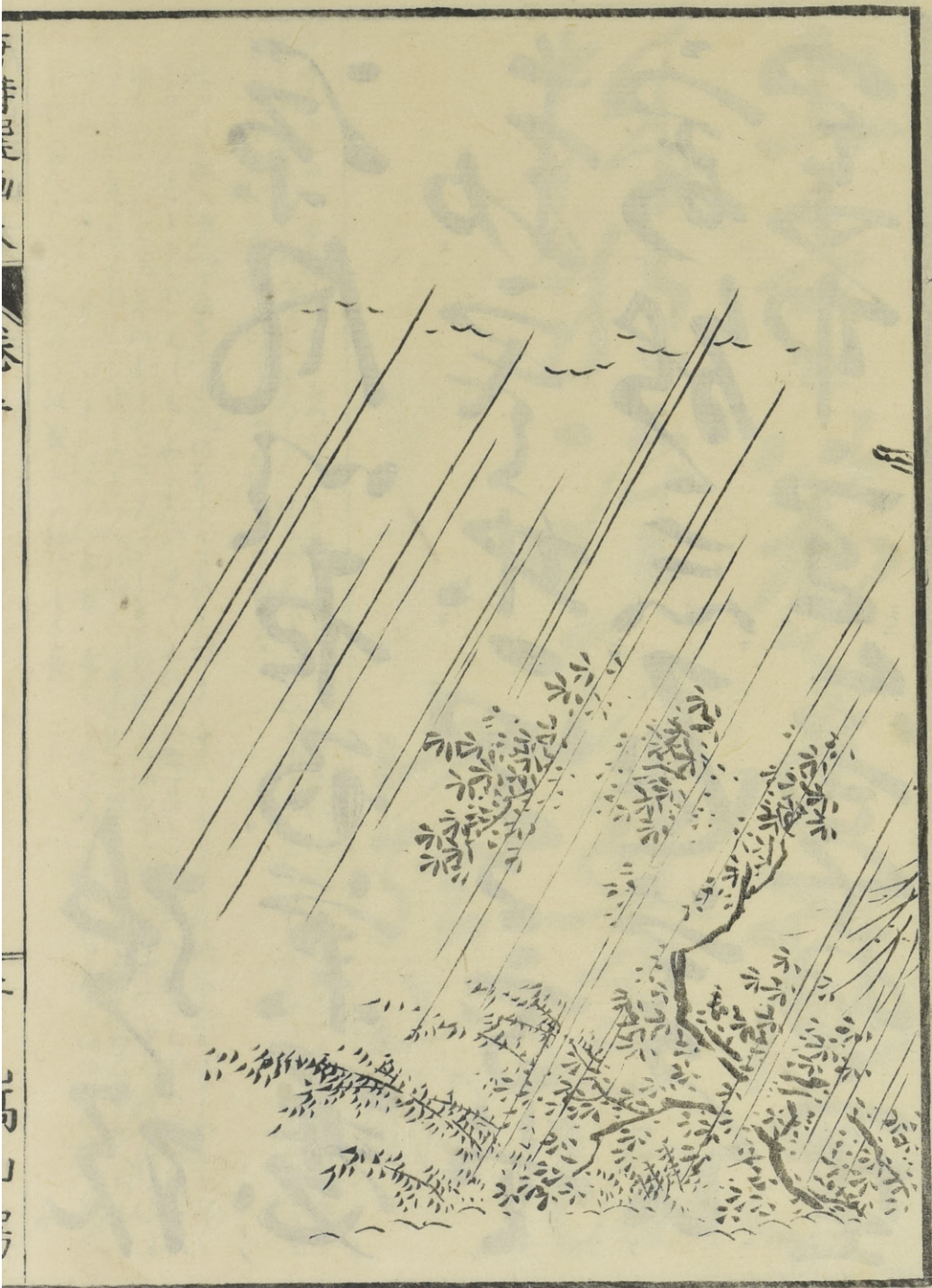
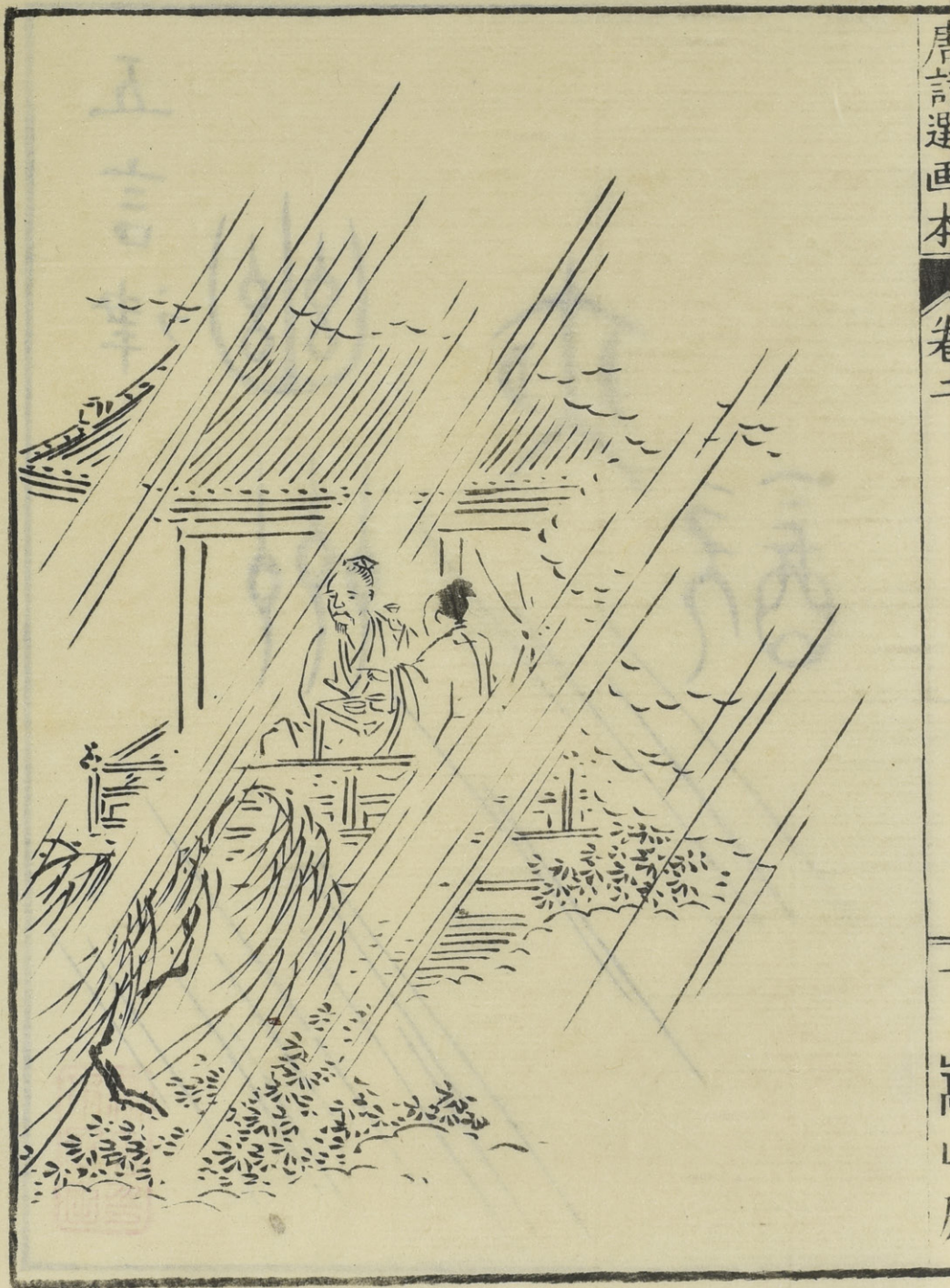


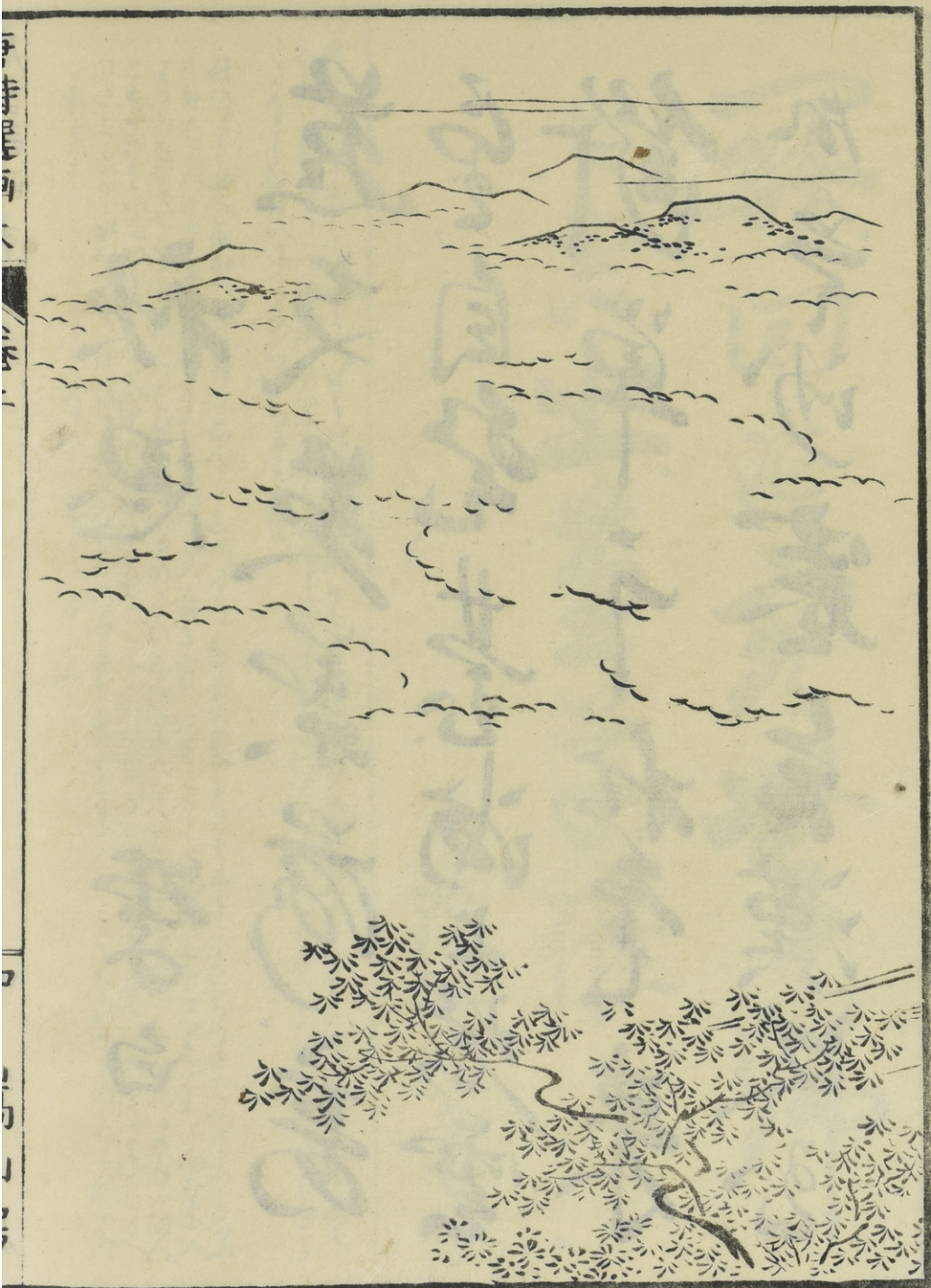
唐詩選畫本

五言律

五言律







李白

蒼支英梨落
望自乾基海上
斷草一枯毛來
故寺沙塞名漢上

毎回証客量帰
 日吉山童子権

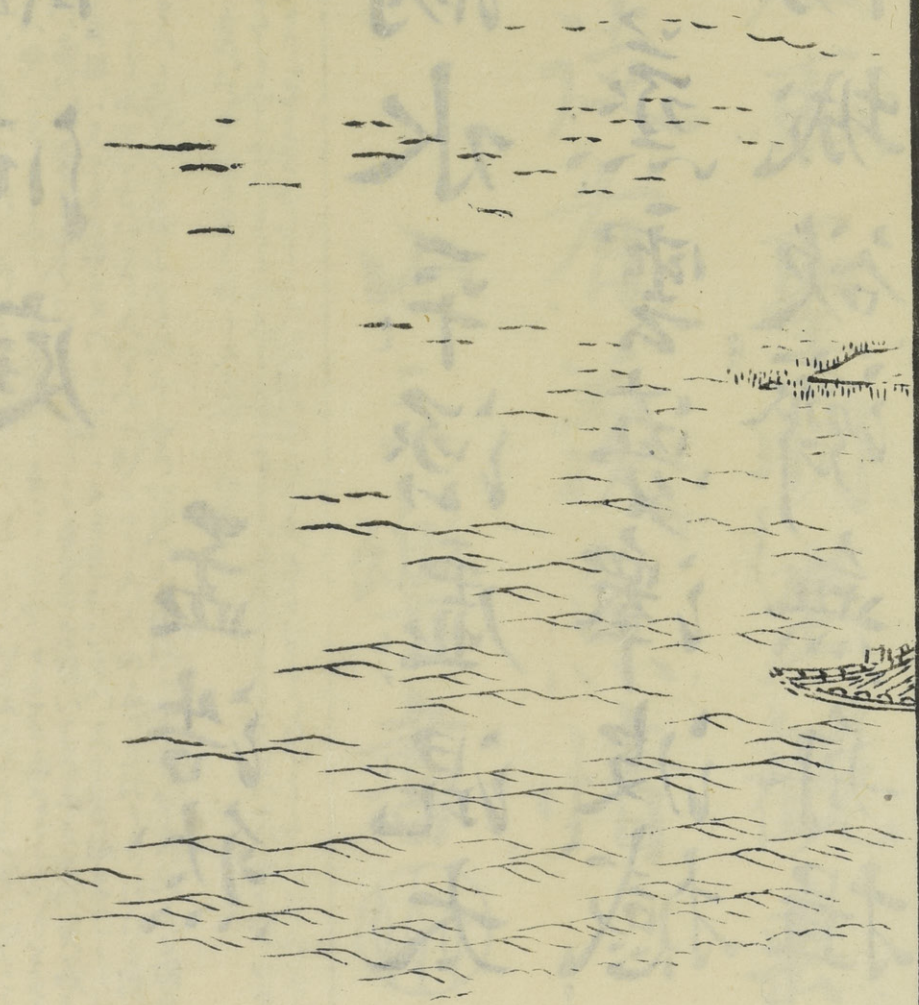
茂松堂書

○あんーかゝあゝあゝん。せうけだえてぶくろゝふにのびる。ひまゝへつきんしく。せんうぶ
まよりきたる。こゝろあやふいぶろー。えんーぎよくえんうろろ。さいくかろひや。むろ
くろろ。むけいさうのくさることを

秋のことゆへ萩おつとの落さるゝふらうも木の葉あとをうつてちついでりふとふ
ふれてさぐりうき臺にのがりて萩おつとの落さるゝふらうそことうみの上をえんきども一向なふの
まうちもさういふもがわつて萩のあれとあひあひ来々入へたぢやをひのとでぢやまけバ胡人
どもがさういていくさまふん中での比喩やこうといひこあらういが王廟うらなへをうらなひてく
つこと云が萩おつとは狂客をもばうるといふのをとりまきく——いふおつものうらなひてく
小萩もおもはうへやううすげうもひふどや



臨
洞
庭



臨洞庭

孟浩然

八月湖水平，涵虛混太清。
氣蒸雲夢澤，波撼岳陽城。
欲濟無舟楫，

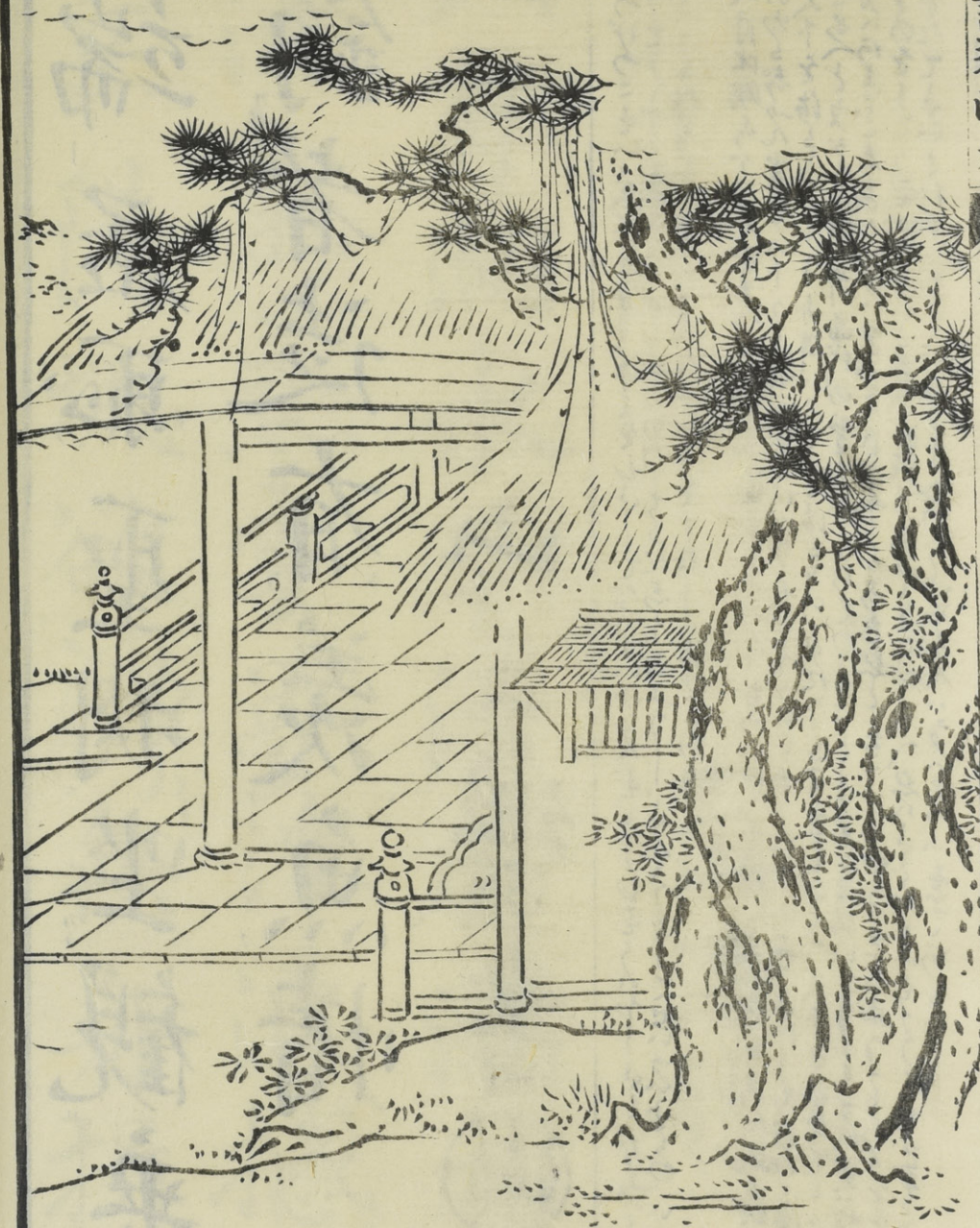
端居恥聖明，坐觀垂釣者。
徒有羨魚情。

山三樂書



○どうげろにまゝいふとらうなり。きよをむくしてないせいふこんど。きよむせうんやういふ。かみづう
ごうせうくやうあやう。もろいんとやうもろにあうあやう。いんききもしてせいふいふとづ。いな
づういふはりをさういふの。なにうをくねいふとやうなり

八月は湖あが一たんふまつ。いふふ小ぬててこのかゝるいふ人太清にこんどてどろにふる胡田
の物とおふん雲夢のうらう水がむきこけり大いふかかくやうろのむききにうちほけり清は
天下を治るものなり舟楫天下を治るものなりたうもひとろ天下を治るものなり
とろど大いふ人舟楫の聖明ふとてつらういふをこまきいてるおもせは実我も
たはのまじとふさかういふ人ききやうかあきとてきこてやうきも治るうつりをま
このをこてをがやういふとろとろはるをこらへおふいふおふいふとて世不きこ
をなていといとねいふとていふうとつとふ所をいふいふいふとていふとていふ





2
84

風動自公鳴將軍
糗饈味子杜府昭
書云云第禮也
以新也市道歸也

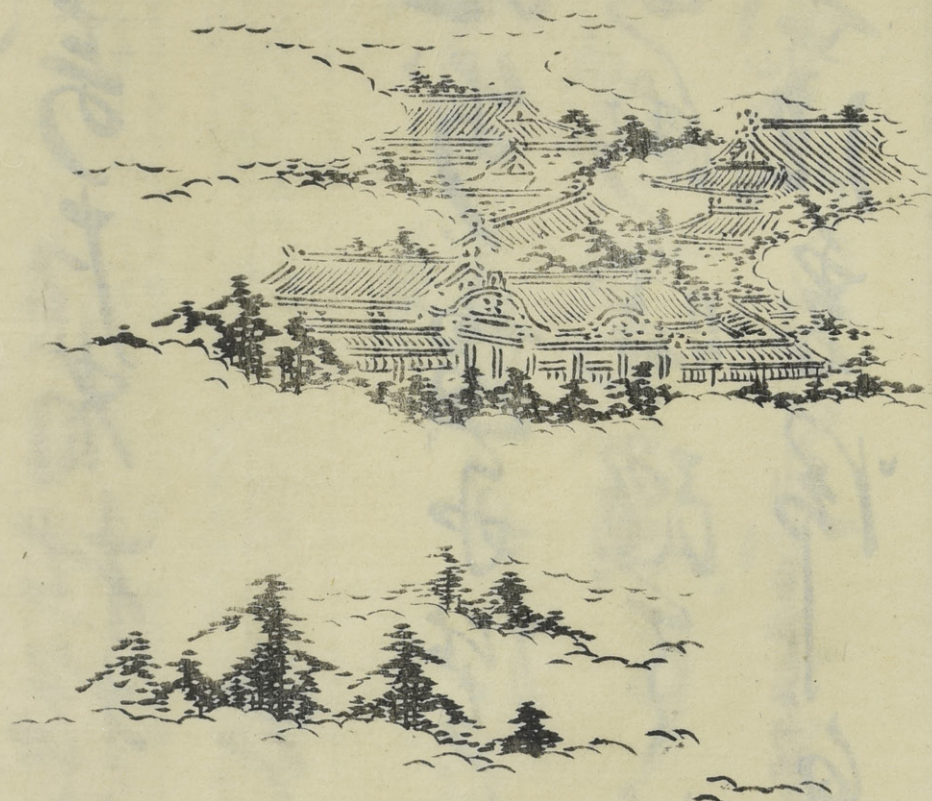
柳道は心持時
ふりてやふ

シニホセ



○うぜこゝろてうくきうなる。あやうぐんいぢあうにうも。うさうまでようぐんく。ゆ
きはきそむふくふ。うちも化あんわうのうちをもぎて。久つてふいでうあふう。
てうをうさこちをうもふんもさ。じんがうんふくうなり

冬にうつと嵐がきくげあつてゆみのすべもかきいてはらの音があつてうりをよまうに
 よい時とゆへあやうぐん滑喉へうにふとやうさもつれてたうのうけゆきも目とやふ
 すうとくちとまへうううにきほの指所もあきもちあうむぎのりもかきく
 面白いうりをうてずもくく長安の都その市をよまうて細柳堂にくるをや日と
 りれ合にぬそ一回獵をうて西をうけうりこれいともかきくうとやうつてたう
 にゆとううといふりの面白うのでおもひだをひあうでゆくとのどや



卷八

祗步趨舟濠分曹理
 字新曉隨之仗入署
 五江香歸白髮忠

花鳥雲月
重朝
詩
小
白
覺

小淨

○まんやしてなんへいふ日あり。かんううあびふりぎる。わくろきはんぢうろにあひごつていう
られふはきようろをばいてろろ。ろくろろそろのおつろをうましも。せいろんろりのさぶをうろ
やむ。せいろけつろなし。ろろろおろかんあよのまれろろことを

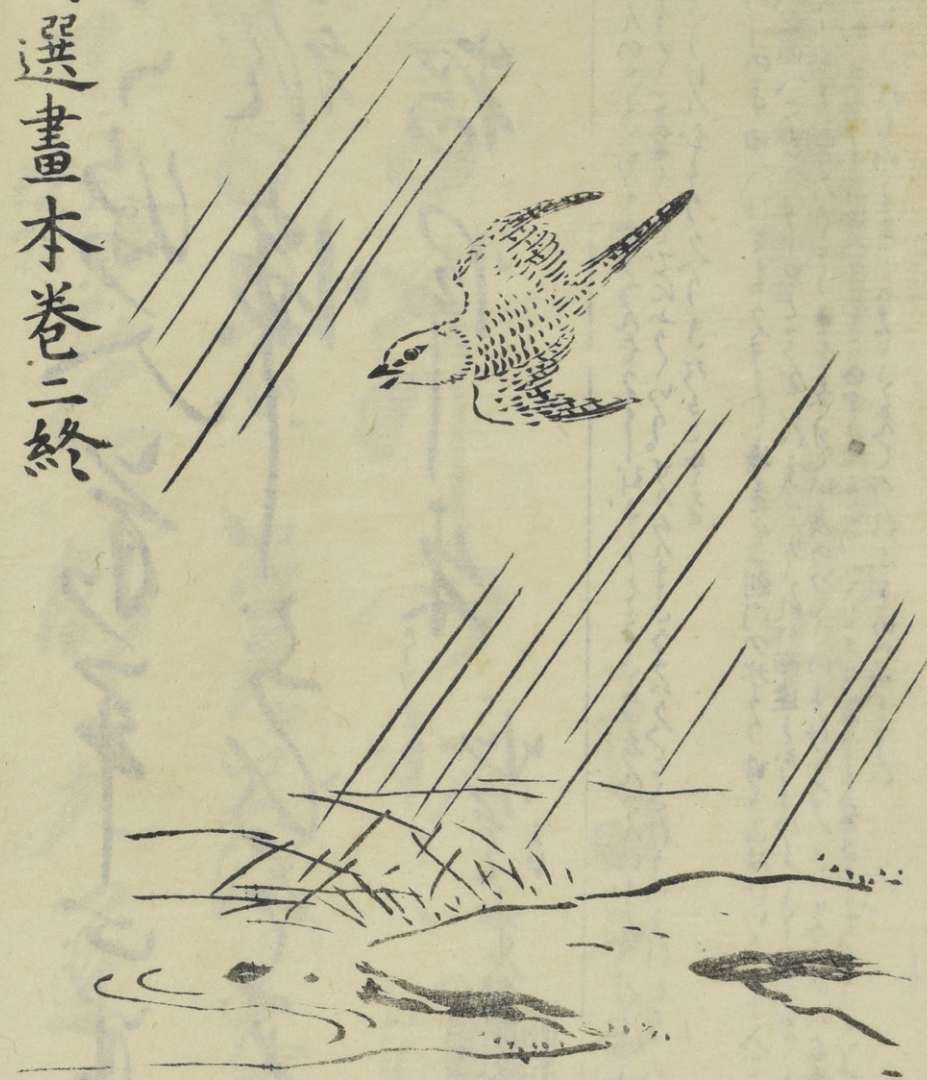
糸内ゆるをりいきぶそを勝歩してより退て八禁裏の右にやゝあふちにより紫微をうぎり分曹してあつちうつきふ糸内ゆるをり八天仗のやこを抄て役人がまればあつてつていもゆりふ天子の所番のうかりがあやうどくもいふつてゆさうやうにくくすふぬまでほえてもやぐへもせむのちうをえても又試春もむさくく西くよとナゲくうひせれらんいふたむきのゆかりもきも天をいふたやうてうをえいひとあへともけりうをうたて廟事うといひいさえするがといひて実はいふたやうでもうわけがよいと云



自
薊
北
歸



唐詩選畫本卷二終



2016.3.22

